

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第379回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

浅草を象徴する浅草寺を抜けた通りは、幅員が狭い道路に広い間口の建物が立ち並んでいる。車社会を感じさせないこともあって、歴史的な街並みの雰囲気がある。日本文化を強く感じる点では、同じく歴史的景観を重視する埼玉県の川越市や滋賀県の長浜市よりもインパクトが大きい。

赤とオレンジと緑のコンビニエンスストアの看板も、ここでは景観に配慮し、控えめな茶色になっている。新型コロナウイルスが流行する



川崎 優太
不動産学部4年

歴史と文化を伝える建物

日本の魅力づくりに大きな意味

前は、漢字を書いたTシャツを着た、日本好きの外国人観光客でゴッ夕返していたことが容易に想像できる。そんな通りの一角に「浅草木馬館大衆劇場」が建っている(写真)。

浅草は人が集まる場所には商売が集まり、商売が集まる場所には芸や文化が集まる、文化の街として栄えたことで知られている。木馬館もその名の通り、大衆演劇の劇場である。周囲の建物が木馬館よりも古い

自然と歴史と文化が一体となった日本の春を感じた。日本人だけでなく外国人の共感も呼び起こし、観光地として親しまれる本場の理由を納得した思いだ。

浅草寺一体には、同じ芸文化の劇場である「浅草演劇ホール」や「浅草フランス座演劇場東洋館」があつて地域の魅力を創り出しているが、日本のお城のような雰囲気を感じている木馬館は、建物の奥ゆかしさの点で他の劇場には感じない魅力がある。高度利用が進み、ネオンが煌々と輝く近代的なまちづくりが盛

のか新しいのか分からないが、瓦葺きのひさし、しっくい塗りの軒裏、破風や壁面などは統一されており、歴史と文化を感じる。東京の都心近くにありながら、高度利用ではなく、道路幅員の調和を保つように低く抑えられた建物なのでに空が広く、自然との共生を感じる。

訪れた日は快晴で、浅草寺の境内で満開に咲き誇る桜とも相まって、

んだが、日本独自の歴史的建造物を積極的に保全・活用していくことこそ、日本の魅力づくりに大きな意味を持つのではないだろうか。

感染症によって密集・密閉・密接を避けることが求められる今日この頃だが、コロナ禍が落ち着き、3密回避が不要になったときには「浅草木馬館」を再訪して入館しよう。その際は建物の外観だけでなく、訪日



趣ある浅草木馬館大衆劇場

客と一緒に日本の大衆演劇を楽しむ、1945(昭和20)年の東京大空襲にもかかわらず焼け残った木馬館のエネルギーを感じたいと思う。

【教員のコメント】

歴史的建造物は観光資源となる一方で、開発圧力がかかる都心部での保存は容易ではない。社寺は固定資産税が非課税だが、時価課税の一般宅地は担税も課税だ。米国の空中権の移転、英国の指定建造物など、遺産を伝承する仕組みが求められる。